

エキスパート外来診療

一般外来で診る common diseases & symptoms



編：五十嵐 正男, 福井 次矢

A5 頁 564 2008 年
定価 6,090 円(本体 5,800 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00559-3] 医学書院刊

世の中に類書は少なくないが、本書は章・項目立てと著者選びに非常に工夫が凝らされた、きわめて実用的かつ格調の高い外来診療のガイドブックだといえる。

まず、章・項目立ては「外来でみる症候からの診断学、治療原則」から始まって、感染症、循環器疾患、というように内科学書に似た章立てとなっているが、その項目内容は外来でよく遭遇する疾患に絞り込んだ簡にして要を得て、かつ実践的な記述となっている。さらには、家庭医的な診療にも役立つように、小児科、眼科、耳鼻科のほか、在宅医療、漢方治療も含まれていて幅が広い。

著者に関しては、24 人が執筆しておられるが、誰一人として共著はない。これは十分な臨床能力・

経験をもった人が、責任をもって執筆したということの意味している。実際、評者が個人的に知っている著者が何人かおられ、皆さん現場主義の臨床家であり、かつ臨床能力も高い人たちである。

本書は、章立てからもわかるように、外来診療のテーブルに置いて鑑別診断を考えたり、処方薬を探したり、というタイプの本ではない。このような、とりあえずの対応はほかの診断・治療マニュアルにまかせ、診療が終わってから少し時間がある時に該当する項目を読むと、その領域のエキスパートの医師とディスカッションをしているような雰囲気に入れる。筆者は「原則として大学や大病院で第三次医療を十分に経験し、その後実際に一般外来診療を担当しておられる方々にお願いし」という編集方針が真価を発揮している。

本書は五十嵐正男先生と福井次矢先生という聖路加国際病院の師弟コンビによる編集であるが、五十嵐先生は現在開業して診療所診療を実践しておられ、福井先生は長らく日本家庭医療学会や日本総合診療医学会などにおける活動を通じて実践的なジェネラリストとの交流が広い。こうした編集者であってはじめて格調が高く、かつ実践的でもある本書が生まれたと言えるだろう。外来診療をするすべての人に薦めたい良書である。